SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

愛鷹火山東麓の地質について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 相原, 淳 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024560

愛鷹火山東麓の地質について

相　原　　淳

1．はじめに

調査している愛鷹火山東麓の佐野川流域の地質は，津屋（1968）の地質図に新富士火山古期噴出物と記載されている．この新富士火山古期噴出物の西縁（愛鷹火山の火山岩との境）は詳しく調べられていないようである．

佐野川の流域には，愛鷹火山の凝灰角礫岩や愛鷹ローム層が分布している．津屋の地質図にも，景ヶ島渓谷付近の佐野川左岸に愛鷹山火山岩の一部分が記載されている．愛鷹火山の地質については，これまで沢村（1955），小川（1974）などの調査報告がある．

2．愛鷹火山東麓を流れる佐野川流域

この調査は愛鷹火山の特色ある愛鷹ローム層（特に箱根新期軽石流）や凝灰角礫岩を手がかりとして調査した．

図１の①から⑨は，佐野川左岸で観察した愛鷹ローム層などの露頭の位置である．愛鷹ローム層中の箱根新期軽石流は露頭②，露頭④，露頭⑤，露頭⑥で採集でき，水洗してみた．当然ではあるが，含まれる軽石の様子など大変良く似ている．

図１．愛鷹ローム層などが観察できた露頭の場所．国土地理院１/25,000「裾野」「愛鷹山」使用．

露頭②の愛鷹ローム層について説明する．愛鷹ローム層については，加藤（1967）ら愛鷹ローム研究グループによる東名高速道路工事現場の調査報告がある．愛鷹ローム層は黄褐色の土で，愛鷹火山の東麓斜面では厚さが約10m堆積し，起伏の少ない面を残している．しかし，侵食が進んだ谷では，景ヶ島渓谷や宮川渓谷のように愛鷹ローム層が侵食され，下位の玄武岩溶岩や凝灰角礫岩が露出している．

愛鷹ローム層は箱根火山や古富士火山のテフラが堆積したもので，下部ローム，中部ローム，上部ロームに３区分されている．調査地域には下部ロームが分布していると思われる．下部ローム層中の

三島市大宮町 2-4-10

図 2. 露頭②の愛鷹ローム層，Hk(pfl) は箱根新期軽石流である．
2015 年 1 月 8 日写す．スケールは 1m.

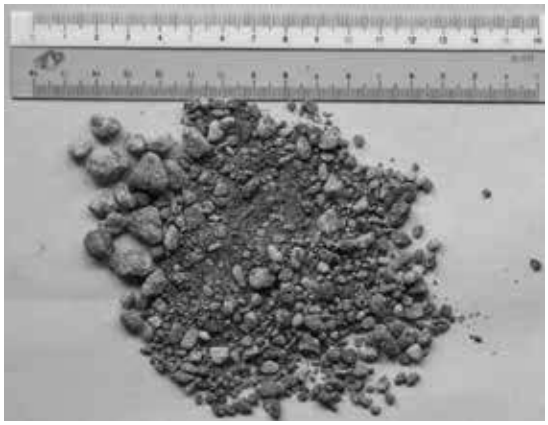

図 3. ②の箱根新期軽石流を水洗いしたものである．

箱根新期軽石流 Hk（pfl）は箱根火山が約 6 万年前の火砕流により，多量の軽石（pumice）を流出したものである．町田・白尾（1998）によると，この軽石流は東方へは横浜市戸塚まで，南方へは伊豆市達磨山山麓まで，西方へは富士山南西麓までタコの足状に広がったとある．そして，愛鷹火山の山麓にも堆積している．

図 2 は景ヶ島渓谷から約 200m 東の露頭②の愛鷹ローム層で，図中の Hk（pfl）は箱根新期軽石流である．図 3 はこの箱根新期軽石流を水洗いしたものである．軽石は直径約 1cm 以下で黄褐色をし，あまり発泡していない．

露頭①から露頭②にある海抜高度 184m の高まりは愛鷹ローム層である．津屋（1968）の地質図に記載されている佐野川左岸の愛鷹山火山岩はこの愛鷹ローム層と思われる．

3．まとめ

佐野川の流域には愛鷹火山の凝灰角礫岩や愛鷹ローム層が分布している．裾野市兎島の露頭⑧や露頭⑨付近には，新富士火山中期噴出物の褐色のスコリアに挟まれた富士黒土層が分布する．調査地域における愛鷹ローム層と富士山噴出物との境は，この付近と思われる．富士山の溶岩が愛鷹ローム層を乗り越えて，佐野川へ流れ込むことも考えられるが，佐野川には富士山の溶岩などは見つけることができなかった．調査についての詳細はホームページ「Volcano Fuji」をご覧いただきたい．

引用文献

加藤芳朗（1967）：静岡県由比町における “Grumusol” 類似の土壌．ペドロジスト，11，81-87.
町田洋・白尾元理（1998）：写真でみる火山の自然史．東京大学出版会．216p.
小川賢之輔（1974）：富士愛鷹山麓地域自然環境．富士市.
沢村孝之助（1955）：7 万 5 千分の 1 地質図幅「沼津」および同説明書．地質調査所．49p.
津屋弘逵（1968）：富士火山地質図．特殊地質図 12，地質調査所.